

自由連合

Libera Federacio

1969.

20, Nov

N-ro. 9

姫路市かめ山町

自由連合

定価 1部 30円

連絡：
アンケートをぜひ送
つて下さい。



10月11日
12.1.2
10.21が意味したもの

6

① 70年代安保斗争ともよぶべき長い困苦が予想される斗いはじまった。

そして、10、21はその起爆であり、緒戦でもあった。それはこれからの斗いの、容易ならぬ苦難さを、きわめて明らかに提示していることにおいて、切実な出発点となった。

② すなわち、7緒戦の重大さは、その勝ち負けにあるのではない。その後につぎくさまざまな戦いについての方向と展望をつくり出し得たか、ということにおいて重大なのだ。(毛沢東) ー自分流に記憶しているのが、まるで創作になっっているかもしれないというところからすれば、すでに経過したものとは云え、いまはまず最大の力をかたむけて、この10、21を改めて見直し、その教訓から11月へと進まねばならないということである。

③ 結果として云うならば、権力者は10、21を不発におさえられず、またわれわれを捕獲センメツすることに失敗した。そして引続く斗いへの力は、それそのものとして殆ど残された。

だが、われらにとつて、10、21は一部先駆部隊の全力投球にもかかわらず、市民大衆との接触・流動化をひき起すことが出来ず、殆んどは群衆的ケリラ斗争として孤立したまま、各個撃破されたり、切断して、中絶をむかえるものとなってしまった。

つまり、10月下旬から11日へとつづく斗いの新しい契機をつくり出して、さらに強力な内部の推進力をたくわえることにはならなかった。むしろ、21日以降、一種の意気消沈と挫折感が生まれ、直にいて、われらは敗けた

のではないにしても、出発につまづき、敵は緒戦に勝ったのである。

④ 10、21の新しい特徴は、7市民大衆をどちらが取り込むかにあらわれた。

われわれが一羽田以来新宿に至る一いまま通りの戦術を、市民に対してそのまま展開しようとしたのに対して、敵権力は7作り出した恐怖しとも呼ぶべき、あたらしい攻撃を打ち出してきた。

つまり10、21は、7権力によって市民のなかに持ち込まれた恐怖の帰趨が焦点となった。

そして、権力側は、7恐怖から市民を守るという立場において、大衆とわれわれの結合を断ち切り、市民を自己の翼下に引き込んだ。

⑤ 10、21は、そのことにおいて権力側の新しい弾圧体制が創り出された。

それは、オーにゴースト、タウン化作戦ともいふべきものである。たとえば、①官、公庁、民間企業等の半日休業、退去命令、ロックアウト。

②早退または退避のキャンペーン。③道路、内、構内等の閉鎖。④主要構造物の防護、防柵、危険物の一掃と整理。かくして斗争の中心となるおそれのある地域一帯から、あらかじめ市民大衆を追い出し、無人化してしまふことに、心理的にも成功した。

オ二に、大企業、商店街その他に働きかけをつくった民間の自衛団組織の発現である。

オ三は、史上最大ともいうべき大がかりな警察力の動員と、その機動化による7先制攻撃的な搜索と7敵底的弾圧とさらに7孤立した勢力の完全な分断と作戦である。

⑥ このようにして、10、21において呼号された、先駆集団の7街頭反乱型斗争が、誘爆力として7大衆の自然発生的な斗争へと流動化する、

以前に7おかしなふうたれしるものと化していたと云えるだろう。

⑦ 一方、当夜、分断され孤立化し、分散避難した戦斗部分や、多数の市民大衆は、非主体的にあちこちをさまよった。機動隊にさえぎられつ、斗争の現場を求めて、ついに合流結合することができないまま、群衆と化し野次馬となる以外に方策を見出しえなかった。新宿や、大阪駅敷息前にあらわれた数万人の人々はそれをあきらかに示すものであり、そのエネルギーはどうにも発現しえないうままに夜半になって消滅した。

⑧ 10、21における火災ビンその他による斗争武器の 에스カレートに対して、権力側の戦術は、マスコミ等を操作した7非暴力キャンペーンにおいて、特徴的であった。

たとえば15日のアメリカMデーに現われたのは沈黙のローソク行進であり、フォークソング悲しき戦場の歌であり、民間民が空に描いたSTOP・WARの煙幕だった。

それらがホワイトハウスをゆさぶったのは、ひとえに整然とした非暴力のゆえである。またそれゆえに一千万余の市民が参加したのだというように、その対比の外において非暴力が語られながら、暴力が弾がイヤされた。しかも、あらゆるものを暴徒としてしまふことによって、機動隊の暴行は不問にされ、斗争の内実にとドメを刺すものとなった。

⑨ 以上のような10、21の統括から、われわれがこれからの斗いにむけてひき出さねばならぬ問題とは、どのようなものか。

オ一に、軍国その量的拡大や軍事技術の向上によって、このような街頭反乱型斗争は、なお血路をひらくことが出来るか。

オ二に、敵がわれらの新しい戦術、7作り出された恐怖によって、権力

(二頁) つづく

に囲いこまれた市民大衆との切断を、どのようにして取戻し、拡大させることができるか。その心理的・物理的作戦にどう対応するか。オ三に、すでに10・21によってひかれたレールを、11・12から11・17にかけて再び拡大的に走らせるをえない大勢のなかで、それをどのように主体的にとらえながら後続する斗いにおける新しい軌軌と展望をつくり出すことができない。

⑩ たとえばあきらかに機動隊に対する量的技術的な軍事的対応は「鉄の軍団化」といってバリケードから要塞へというスローガンによって拍車をかけられようとも、現実には願望的なものでしかない。より孤立化させられた少数者の心理的なエスカレーターを意味するだけにではない。そこにあらわれたい軍事的正面対決の思想と、それに理とおい状況のもとでは、今であるからこそ前進「ケリ」斗争の徹底化が追求されねばならないだろう。

だがまた「機動隊によるゴーストタウン化や、生産員のロックアウトは一週間とつづけられない。体制としての機動隊秩序は持続できない」という判断が成立つ。しかし、このことはまた裏返的にわれわれにおいても同じである。われわれもまた日々の消耗を補給する肉実をもたず、その源泉になる大衆との結合を切断されているという状況において、多様で創意にあふれる「ケリ」斗争こそその内実をつくるものである。

⑪ まず一にも二にも、現状における権力との斗いは、なお未だに「市民社会において強く固められていく体制秩序に対しての暴力の秩序のギャップ」とそのハカモノ二に対する斗いである。ことを確認しよう。

そしてその斗いは先駆的な前征の「反戦」の旗幟を明確にした犠牲的献身の行動を要求するものであると共に、あくまで市民大衆との結合・強化の道をきりひらくものとしてあることを忘れてはならない。

敵権力に与える打撃の大小はまさに市民大衆の動向と力にかかっているという真理を10・21は改め

て教えている。

⑫ だが、このような教訓にもかわらぬ、

11・13 柳井政治経済スト・全国スト・沖縄全島スト

11・15 全日反戦「明治公園」結集

11・16 反安保総決起デモ

11・17 羽田空港占拠・首都制圧

と、当面する斗いは、10・21の延長のうえにより精力的に斗わねばならないだろう。

⑬ そしてすでに作られた状況のもとに、われわれも主体的にかかわる以外にない。

それらの斗いと、12月1月と引続く斗争において、われわれが主体的にかかわるということの意味は、まさに次にあげようようなことを、斗いの中に位置づけ、新しい展望をきりひらくことにかかっている。

すなわち――

⑭ 街頭斗争を「火事場さげ」的状況としてではなく、明確な政治斗争としての一般性を与えるためのあらゆるカンパニヤを同時併行すること

⑮ 大衆の流動化を創り出すために、爾前および現場において、その收拾方向をもふくめた臨時的な行動方針を提示して率先すること。

⑯ 中央拠点集中にあわせて、できのかけりの地方の小拠点または街頭における斗争化を多発しつつ、小クルーによる効果的行動を創出すべく、オルガを送ること。

⑰ 街頭斗争の基盤としての「日常的的謀反」を生産員と地位に生みだし、地域をつつみこむ方向を強化すること。

⑱ 部隊をできるかぎり小クルーに化し、ケリラとしての技術的訓練を習得させて、臨機応変的行動をとらせること。

⑲ 市民大衆を救済活動のなかへくり込むため、斗争前かけカンパニヤをおこし、シンパから活動家への道をひらくこと。などである。

⑳ さらにこのことを佐藤訪米以降のこととして具体化するならば、

㉑ 佐藤訪米の結果を反古化するために、まずオ一にその帰国をむかえつつ斗いがひらけ提起されねばならぬだろう。

それは一つの出来事に対して、考える限りの多くの側面からの多様

な攻撃をしかけるということだ。

㉒ オ二には、総選挙必至の状況の中で、政府自民党、マスコミ、それに社共をも含めて向題を巧妙にすり変えようとする策謀が露骨である。こんなことがあってもそれにのって

はならない。

そこで、選挙結果をも見込めて、投票拒否運動が反安保斗争としての新に意味をもつて、積極的かつ大衆的にまき起されねばならない。

㉓ 11月12月にかけてその反戦運動の焦点の一つに、弾薬輸送の断固たる阻止斗争が、全沿線にわたって展開することが考えられる。この斗争はわれわれに広域の斗争現場と、バラエティに富んだ新しい斗争方法を考案する夢を与えてくれるものではない。しかし敵にとつては、危険物をひかえているというハンディギャップがあるため、われわれの小さな決意が大きな結果に引火する可能性を常に秘めている。その具体例として、輸送網の寸断にもつても致命的な信

② 3月1日万博が始まるが、政府は「大口日本」を誇示せんとやっきになっている。それはまるで「お客が来るので、急ごしらえに座敷を整理しよう」とするのに似ていなくもない。逆にみれば、万博は力にとつて一番弱い舞臺としてある。だからこのような座敷にゴミをばらまけることによつて、現在の政府の威信を揺り動かす、見せかけばかりの疑似文化・疑似権力の実体は暴露されるであろう。

㉔ 11月13日から16日まで、アメリカでも日本の運動と連帯した一連の運動が計画されている。このことは、日本人民の反安保斗争が今や海を越えて世界的な斗いとなりつつあることを示している。今までのあやりにこれにきた点であるが、今、再度このことを確認し、自らの運動のもつ深い意味を考えてみる必要がある。

アメリカ人民の力がわれわれに伝わり、われわれの斗いがアメリカ人民に理解されることによつて、さらに大きな力を生み出すことだろう。

② それびすでに作られた状況である限り、われわれは一步步階段を登る以外に、一歩を生きのびる途はない。ただその過程でいかに自らの生命の主体性を発揮するかによつて、70年代斗争が決まるのだ。(向井 孝)

自由発言

自連の座標は

たとは議論が、私たちの身辺をほなれて、とかく「天下回家」におよぶとき、いつしか私たちは自分を首相とか代議士のような位置の高みにおいて、あたりを見下ろすような視座からしゃべっているの、しばしばではないだろうか。「政治」をあげつらうとき、たとえ反政府的立場であるにせよ、かならず為政者の発想から語られてきたというのが、明治の自由愛国家の伝統であり、現在でも、それは日旺のテレビで首相をクン付けて時々する政治評論家から庶民の床屋政談までに通ずる姿勢である。

ということばは、私たち庶民が、こと政治にかかわることとなると自分の座標をはなれて、為政者の論理とその土俵のなかにとらえられ、しよせん体制内での視座を脱け出しえないというところだろう。よく自連の論調にのぞむものは、このようにな「為政者の論理」にほかならぬ評論家口調や床屋政談を根柢からくつがえしてしまいう新しい政治談話である。庶民の立場をこのようなきも放棄することのない、「庶民の視座」である。

(小川 信)

K君からの手紙

お元気でしょうか。活動はうまくいっていますか。仲間の皆さんもうす暗い電気の下でかり切りに印刷に今日も遅くまでがんばってあられることでしょう。

今日は、ぼくたちのクルースの状況が現在のようなものであるかを報告して、アドマイスをお願ひしたいと思います。

クルースとして非暴力をどのようにとらえるのかという点について、漠然としたものですが、クルースの中で二つの見解に分かれています。一つは非暴力直接行動の体系的展開を志向して、その包摂的形態として現在の運動を位置づけようとするものです。一つは、運動を自己変革としてとらえるものです。彼らは、非暴力的な思想家についてあれこれ論議をめぐらし、非暴力直接行動による

「たたいいといわば自己確認の場としてとらえようとするものです。しかし、クルースのこのような分解・流動化傾向も否定的にとらえられるものではなく、相互の緊張関係による自己の原理の深化と、それによって現在の自分達の自己認識状況を打開しようとするものです。」

二、ベ平連造反クルースへ声なき声の会、葛飾ベ平連、日大芸楽委ハンパクルースの提起した問題を自己のものとして受けとめることにより、ベ平連運動の質にかかわることととりあげざる方向性が生まれてきました。具体的には、「非暴力がラララ」の展開の問題が市民運動の緊急課題としてのぼってきいている。

三、赤軍、あるいは「内ゲバ死傷」の問題を含む現実の状況の中で「暴力」の問題は、反戦と変革を追求する者か、自己の内部をみつめなおしつつ闘おうとする時、どうしても回避して通りすぎることでない問題である。理論的に「暴力」と呼ばれるものと真正面から取り組むことに分まざるは立ち遅れていることを認めざるをえない。

四、学習会は毎週、塩谷雄高の「幻視」の政治をやっています。今までやったものとしては「魯迅」「シモエヌ・シエユ」があります。ふと自分のやっていることはアソビじゃないかと思うことがあります。鉄格子のむこう側に行ひなまや嘘じやないか。今行けない奴はこれからも行けないんじゃないかとさえ思います。

昨日、日大警備斗争に出て行きました。バリケードの材料を探したり、酒屋の軒先から空ビンや空箱をいっぴりして残骸隊に追われる。そういう催涙ガスのなかでの束の間の「戦斗性」は斗いを日常化していかないもの。帰って来る口電の中でフト自向している自分に気付きました。しかし、非暴力反戦行動はこのまの状態で甘んじるものではありません。非暴力直接行動をもって敵の家殺しの武装部隊と対峙し、自らの血を流すことにより、権力内部の動揺解体を迫り、圧倒的無関心を内発し、真の大家蜂起状況を必ずや創出させる非暴力がかりラ集団へと成長しなければならぬと思います。11月、70年を刻一刻と何ひ大きなものが近づいてきますが、

自警団はマジョリティの前兆だ

最近のデモには、①・私服・右翼のほかに「自警団」なるものが登場して、弾圧攻撃をひけている。

オース、それは商店会や町内会などの自主警備クルースと伝えられているが、けっして自主的なものでもなんでもない。実際は警察に全く教唆・指導されている。その好例が梅田大学に対する陰險な警察暴力と梅田地下商店街の姿である。今では、そろいのヘルメットに鉄パイプという自警団する、10・21の新宿・曽根崎に現われ、路地に逃げこもうものなら半殺しにされかねない。

オースに、そういう自警団を管理化するものとしてのマス・コミの報道がある。デモのあるたびに、きまつて「迷惑する一般市民」を登場させるのはなぜか。マス・ファッショ化への危険は暴力からの操作に、積極的に加担するマス・コミをみる。

オースに、この自警団のいきつく先は、関東大震災時のそれのようになるだろう。暴力の暴力性を隠蔽し、隠れた暴力の前衛として、大衆の中に在り、除々に大衆全体を反動化していく役割を果たすことになる。

(大山 周作)

自連に送られてくる機関紙

反戦のきずな(千葉ベ平連)／三里塚救護二ユース／救護センター／大泉市民の会二ユース／NON／フリータム(自由をわれらに)／市民学生連合)／声／脱走兵通信／リベリテ／告発(水俣病を告発する会)／一人ぼっちの出来(赤相反戦)／統一／平和と社会主義／ベトナム留学支援の会／拒路行動二ユース／市民情報／なんたい／北摂ベ平連二ユース／ゆきめした／城通信(思想の科学雑誌クルース)／ちやりんぼ(京片ベ平連)／金剛石／素面／ベトナムに平和を欲見の会／二人／辻潤評伝／週刊アンボ神戸／PAX／やまぼと／フライアル／二ユース／群衆(善光寺日本忠霊堂を襲えろ市民の会)／以エ一部をあげました。

自由発言

思考の転換を

如何に生きるべきか(原理)の問いに答えることなしに、何を為すべきか(現状分析)は決し難い。古い思考のパターンでは、あらゆる事物を固定化し、押しつけて、批判しようとするものがある。こうした中で、平和連や新しい反戦グループの「平和から反戦へのスローガン」は、平和という静的状態概念を排することによって思考の停滞を脱しようとするものを營んでいっている。しかし、このような考え方の中に、事物を可変的なものとして捉えず、固定化する思考のパターンがまだ根深く残っているのを見る。政治的思考のパターンは、平和を目的とする捉え方に代表される。これに対し、多くの考える思考のパターンは、平和を手段・関係とする捉え方である。それは、事物とその関係の变革そのものの「平和」であるとする考えである。変革の境に平和がやってくるのである。このこと、ところが、平和を状態と考えることによって時の体制に埋没してしまったり、平和を目的とすることによって殺戮を繰返し、自らその陥穽にありいるという過去の歴史をばく違はもっている。

「平和」が常に手段である限り、新たな関係、平和を生み出し、よりよく源にあり、留まるところがないと、ばくは確信している。

(権一平)

革命は戦争か?

新左翼の中に、非軍派をはじめとして、軍団化しようとする傾向がみられる。

政治斗争を志向するなら、軍事が第一の課題として明確化するのには当然のこと。要するに革命軍が反革命軍に軍事的に勝利すればいいのだから。

だが、革命とは、革命軍と反革命軍の戦争なのか? 革命には必ず反動が起こる。反動を駆逐しない限り革命は「勝利」しない。だが、反動は必ずしも軍隊の形で登場しない。むしろ反革命軍として現われているうちは、

まだ安全だ。真の反動は、革命のま、たに中に生まれる。革命とは、永久的に、次々と生まれる反動を自動的に粉砕してゆく事態をさすのだ。反革命に制圧されるような革命はまだ革命ではない。反革命軍を無力化するような事態は、真の革命だ。革命軍を組織して反革命軍に立ち向かうという図式は、革命を単に政治斗争としてとらえるところから生まれる。だが、社会的経済的な斗争は、より根底的で全体的な革命を導く。革命は戦争ではない。

自連は

研究公運動をはじめる

行動の意味は、結果よりもプロセス、技術よりも思想性で決まる。行動は、それそれ思想的に深められなければならない。「自分の行動」には自分の「思想」が必要である。

研究会は、自分の思想をぶつけて、鍛え合う。対決の場だ。

できるだけ小人数で、地域ごとに研究会をつくりたい。そしていさな会報を出す。みんなが書く。

そして、「行動」だ。だがそれは、あくまで個人のものだ。研究会で批判するなり、コミュニケーションの断絶? もとよりそれが出発点なのだ。ばくかししようとするのは、そこからコトバを創り出してゆくことだ。思想の対話が不可能でも、思想の対決がある。そして、思想の対決に用いる武器は、コトバだ?

x x x

さて自連社では、今後、全土各地で読者会を開く。これは読者会ではなく読者会であることに注意してもらいたい。その日集った人が、次から責任者になる。そして読者会が、読者会でなくなるのだ。そして、それらをつなげるわけである。「自連」である。

自連紙は、全土各地の個人に共通のメテアであるとともに、そうした集まりの共通のメテアでありたい。

誰か、自分で読者会(研究会)を開く。こうとうという人があつたら連絡してください。いつでも飛んでください。すでにそういう運動をしている人があつたら連絡して下さい。

大阪「自連」読者会のお知らせ
11月23日(日) 梅田喫茶店
MOKOモコ 一時 (連絡先まで)
シネマ館のつらなる

最近の

外国アナキズム誌

ばく連の手許に海外のアナキズムや反戦運動グループから毎月あるいは毎週いろいろな機関紙や出版物が送られてくる。今後それらの一部を自連紙上でも紹介していくことにする。

x x x

★フリーダム(8月30日号)

フランスのアナキズムの心理学(ナキズムの研究である。その中でもフランスの経済の分析やフランスと共産主義の類似に於ける記述が面白い) / 無知と読報がもたらすもの / 本場の騒動を作るものは(野球のチームで審判のジャッジに不服な群衆がランドに降りて騒ぎ出すことかあるのだが、イギリスでは同じことが、フットボールで起る。その時の群衆の心理を分析したもの) / リバリーアンの権利(ソローなどからみられるように、人間が現代で自由であることの権利) 新刊書広告、クロボトキン著「国家」その丁史の役割「チエコを忘れるな」ロシアの侵略に對するアナキストの抵抗

★フリーダム(9月13日号)

百科全書編さん者としてのクロボトキン / アナキストへの一通の手紙(いわゆる革命的アナキストに対する素朴で、それゆえに根本的な疑問を發している) / 相互扶助によりかかるアナキズム、自己陶酔集団アナキズム、必要なのは自立と刑務所へ送られたカプリンの借家人(今イギリスでは借家人、それも古い建物やスラム地区に住んでいる人達の向がある。道路拡張、スラム撤去等の国の行政に抵抗して居る住人の斗争は、しばしば暴動を起したりしている)

★ソリタリテイ(V6 N1)

新しいフロレタリアート(①労働者階級の消滅) ②非ストライキ階級 ③ホワイト、カラー労働者の変遷 ④ホワイト、カラーの戦斗性 ⑤結論 という章に分れている) / フォード、マワの野性の猫(マワとはアメリカのニュージャーシーにあるフォードの工場である。ここから、黒人労働者を中心にストライキを起す) / アメリカの労働運動の内幕を述べた) / 2つ、3つ無数のCDSを

伝言板

★世界を強き世

「私にとつては、マルクスやトロツキーの言説よりも、はるかに自己の「生」についての己の思索の方が重く、他者の革命より、自己の革命の方がはるかに巨大だ。死ぬことができないとすれば、生きるしか仕方がない訳だが、生きることに耐えぬために、生に關する自己の思惟を断じてやめることはできないであらう。少くとも、そう決意した者にとつては、自己を裏切ることによつて他者に従う方法は全くないのである。」

「旧々人の革命運動への参画は、もはや、自己の死を賭した何有生の問題としては論じられず、抽象的な革命論を強引に現実と連絡し、とする、フラタマティックな、いたすらにエスカレートされた幾多の誤行錯誤的行動のいずれに加担するののかといった問題としてのみ論じられており、そこにおいて、その行動のもつ歴史的意味の深さによらずに、行動に伴う危険性こそが革命のバロメーターとされる観念があるのだ。」

「『革命幻想』を革命家への手引としてより、蛇足であるが、ここで批判されている革命家とは、年々のことではない、精神と想像力の乏しさを指すのである。」

「壮大な幻想なくして、革命は決して現実化されるものではない。科学や技術の問題である前に、犯罪の確立と犯罪空間の確立の問題なのだ。世界を強き世よ、ドジを踏むな。(犯罪空間創刊号より、東京都文京区同立一丁5小島方)」

★首都社

「首都社は、戦后アナキストが急遽で成り上がったところの反権力斗争を、幻滅で、単純で、大衆的基盤も持たずに、ある程度ハネ上った形であつたが、激越に行つてきた。首都社の行なつてきた一連の運動は、戦后アナキズムから停滯から脱却する試行錯誤であつた。それも10・6事件を最後に、世界的なアナキズムの要求に應じる新たな運動の展開のための一契機となつたと考えられる。」

「アナキズムが、民衆の運動であるからこそ、活力と生命力を有し

ているのである。アナキズムが不正で多であり、教外別伝であるが故に決してインテリの書いた書籍で宣伝することはできない。それは、唯一激しい反権力斗争における流血と火炎と硝煙と叫喚によつてのみ以て他心に伝播されるものである。これを行動によるプロパガンダと云い、無数の暗殺と無足鬼の破壊がこれを証するに違いない。」

(THANATOS創刊号)

★PAX 11号

「教育実習自主管理斗争」の記録を特集している。

大阪教育大の「教育実習自主管理委員会」の提出した具体的な自主管理案は、①優良司の二段階評価を撤廃し、皆否に転換すること、②一方的に押しつけられるのではなくて、自分の必要とする指導教官を選ぶこと、③自分の必要とする実習校を選ぶことである。

しかし、「教育技術」をどれだけ踏襲したかということだけを問題にし、技術の基礎をなすべき科学、更には科学の基礎をなすべき思想性を不問にふしてしまふ教育実習とは何か、技術至上主義にとどまる教育実習の段階での斗争は、困難と限界があり、「時間的な制約もあり、結果的にはホイコソットせざるを得なかった」と報告している。

その他にも「患患事件」北海道の野崎牧場での接産の記録。尾関弘「われわれに与えられる安否・補償・安否の民族理論からの展開」がある。

(門真市大倉町の竹嶋方・S.C.I. 関田・郷達利とも自田)

★大阪労働運動研究10

大逆事件再審請求主任弁護人の森長三郎氏の「大逆事件と大阪・神戸組」は、三時間に及び講演の要旨であるが、その詳細をきかめた「事実の追求は、貴重というだけでは済まずこのときでない人間の真実をえがき出して感動的である。例えば、「……次に速水ゴウ。九月一日、鈴木本橋事によつて取調。彼女は三浦芳太郎の馴染みの娼妓で千両と称していた。三浦よりも一〇才も年長である。彼女の父親は速水東湖という書家であつたが、貧乏のため、他の姉妹も女郎に売られていた。このゴウも川崎、名古屋、大阪を転々としたあげく三浦と馴染みとなつた。文少力で、平民新聞を購読し、三浦

からは『荒野』とか『婦人新聞』(これは娼のであらう)を贈られていた。……など、末端にまでとどいた調査の努力は、おどろくべきものだ。(発行、阪田市山手町関田大学文学部小山研究室内、大阪地方労連労研研究会。頒価二五〇円)

★新刊 政治の正義

—W・エドウィン著—
「はしもとよしはる訳」
(まえがきより抄)「本書の訳を思いついたのは……現代においてアナキズムを述べる多くのひとの意見の大部分が、エドウィンによつて先取りされているのを認めたからであつた。」

世界中の中で資本制の両面が問われるようになつて久しい。果してこれが頂点を極めて、確実に凋落へ向つているのか……その動向は最も重要な生産手段を国有化すること、社会主義の形をとるのであるかどうか。これについて政治学・社会学・法学のそれそれの立場から多くの論議がこれからも続けられよう。しかし人間の立場から、その心理と道徳の立場から、何が人間の幸福であるかが問題になるとき、エドウィンの思想は、高度の知性をもつた何人々との何人々の集りである社会、そこでは政府などの無情政治形態を有する世界を啓示してやめないだろう。

(バルカン社社員・柳田、東京都新宿区東大久保一ノ四六四)

★週刊アンボいよいよ発表

おまたせしました！
11月17日にオム号がでます。
アンボをつぶす——紙の弾丸！
隔週刊。6ヶ月続けて倒産の予定。定価は、高くて安い——一〇〇円。書店の店頭にも出ますが、確実な入手には直接購読して下さい。

せひ！！ 10号分一〇〇〇円
5号分五〇〇円

振替・東京四二八六(東京都新宿区神楽坂6-44・アンボ社。直送!!)

★各地で日刊・週刊、次々登場!!

日刊アンボは、北摂八平連が毎朝豊中駅前で、日刊アンボ社へ反京教大八平連中心に京都駅前・田舎河原町で計画、17日佐土訪米まで続ける予定。週刊の方は、神戸行動と神大アンボ社の二つ、発刊中。今後日刊中でどんどん登場してくるだろう。

連載 ヨーロッパのアナキズム
武者修業の記 5 尾 関

去年の秋、ぼくがイタリアのカ
ララで開かれたアナキスト・イン
ターに参加するためにフランスを
発ったのは、メキシコ・アナキス
ト連盟からの代表ドミンゴ氏の運
転する車であった。メキシコ代表
といってもドミンゴはスペイン七
命着アナキストである。カララに
は、メキシコからは彼のほかにも
う一人明らかにメキシコ人と判る
代表が参加していた。ン

ドミンゴは、スペイン革命後メ
キシコに亡命し、そこで土建会社
を起し、大成功をおさめた男であ
る。彼にとつてヘアナキスト・イ
ンターに参加というのは、奥は
口実にすぎず、世界各地に亡命し
ているスペイン人の友人を訪ねて
豪華で優雅な海外旅行をしている
としかぼくには見えなかった。彼
はメキシコからカナタ・ロンドン
パリと飛行機で旅行し、パリで自
動車を新しく買って、それに乗っ
てカララにのり込んだような男で
ある。彼をぼくに紹介してくれた
ニースのアナキスト・タルーの
リーター、アラナスも「あいつも
変ってしまったものだ。気を悪く
するなよ。本当のスペイン・アナ
キストはあんなのじゃないから。」
とそつとぼくに囁いたのが、妙に
リアルなものとなった。

しかし、このスルジョア・アナ
キストのおかゆでぼくも、快適な
自動車旅行ができたし、おまけに
旅行中はぜいたくな食事を立派な
レストランで食べさせていただく
光栄にあずかった。

× × ×
ドミンゴの自慢は、息子が持っ
ている「アナキズム図書館」と自
分が資金援助をしている「アナキ
ズム百科辞典」編さんの仕事であ
る。

よく知られているように、アナ
キズム百科辞典の編集は、クロホ
トキンヤセバスチャン・フオール
が始めた仕事である。それからは
んど進まないうちに長期開放つて
おかれたのを最近になって七命ス
ペイン人アナキストを中心に、バ
ネズエラで編集の仕事が再開され
たのだ。

トル・クラシアも加
わっている。へ会談
になるが、クラシア
は書けるスペイン人アナキストとし
てスペイン人だけでなく、イタリア
人やフランス人の面でも非常に有名
である。また彼の著書は驚くほど多
く、そのいくつかは各言語に翻訳さ
れている。その中でも彼の「東洋へ
の旅」という本の中には、向井孝宅
でソロバンを習った話や、日本の風
呂やウドンのことなどについて詳し
く書かれてあり、アナキストだけで
なく多くの一般の人にも読まれて大
変な評判であった。ン

ぼくは、アナキズム百科辞典のオ
ーナーだといふ都厚い本をドミンゴに
見せてもらったが、アルファベットの
AとBだけをオーナーが終っている
のには驚いた。この調子だと区まで
いきつづの最低20巻ほど要るので
はないだろうか。それを編集し終え
るには、あと少くとも百年はかかる
のではないうだろうか、というぬ心配
までしてしまうほどだった。

アナキズムには体系がない、それ
故に論理が曖昧で矛盾しているなど
と批判されたりもしてきたが、この
百科辞典編さんの作業は充分それら
の批判にこたえうるものであると思
われる。アナキズムの多方面にわ
たる主張を網羅し、異なる見解も収
的に取捨選択することを経て全て
紹介するなど、微に入り細に入る編
集、とりわけ多くの犠牲を払ってま
でもこの仕事を進めているスタッフ
の偉大な献身と誠意をみて、尊敬の
念を抱かずにはいられなかった。

× × ×
ぼくとドミンゴがカララに着いた
のは大会の一週間も前のことであっ
た。ドミンゴはさすがに海岸近くに
ある観光用のホテルを宿にすることに
決めたが、ぼくには宿がなく、仕
方がないからアナキストの事ム所の
片隈にでも寝かしてもらおうと寝袋
を片手にとりあえず事ム所を訪ねて
みた。

事ム所になつてゐる建物は古くて
大きな建物で、カララの中央広場の
正面にあり、昔からアナキストの集
会などに使われていたものである。
しかし現在は、一階は映画館とルー
レットのある娯楽場、二階は巨大な
ホール、三階がアナキストの事ム所
で、その他図書館にバーや集会室、
それに事ム所の専従員のモローニと
バーで働いている男の家族が住んで

いる部屋があった。

バーで働いているこの男は勿論ア
ナキストであるが、実に人の好い愉
快な男であった。ただ欠点は、酒癖
が少々悪いことだ。酒を呑むと人に
からんでくる。ぼくにもこんなこと
を云ったことがある。「お前はアナ
キストか。」「うん」それじゃあお前
はアナキストじゃあない。本当のア
ナキストは自分でアナキストとは云
わないものだ。それにお前は、この
俺がどんな人間か知らないクセに、
これはつまらない冗談にすぎない。
がこの年頃のイタリア人アナキスト
は極端なほど警戒心が強いそうであ
る。それはムッソリーニの時代にア
ナキストであるという理由だけの為
に何年も牢獄生活を強いられた彼ら
の経験から来ているのだと後で聞か
されてなるほどと思った。

事ム所はそのまゝその地のアナキ
ストの集会場であり、溜り場である。
仕事を終え、夕食を終ったアナキス
ト達が夜になると三々五々に事ム所
のバーに集り、同志と酒を呑んでは
ぐべり合うというのがイタリア的な
習慣なのだ。そこにはまたイタリア
アナ連の週刊紙「ユマニタ・ノーバ
へ新しい人間性」の最新号が置か
れ、その他種々の新聞紙や雑誌類を
自由に手にとつて読めるようになって
いる。

× × ×
カララの事ム所は、大会を一週間
後にひかえ戦争のような忙しさをあ
つた。あの広い事ム所が、この時ば
かりは狭く見えたほど、多くの人が
思い思いの仕事をセカセカと進めて
いた。ぼくはここでフローレンスか
ら商売の途中ちよつと事ム所に立ち
寄り仕事を手伝っていた30才ぐらい
のアナキスト、パウロ・レオニと本
会った。彼は丁度帰ろうとしていた
所であり、それにぼくもこのままカ
ララに残つていても何も手伝えそう
になつたため、パウロの誘いに応
じて大会までの一週面をフローレン
スですすこととした。

フローレンスは、バクーニンやカ
ミール・ベルネリのゆかりの土地
で、古くからアナキズム運動が盛ん
で、現在も大きなタルースがある
と聞いていたのだ、それもぼくにとつ
ては大きな魅力であった。

ぼくとパウロは、一週間後のアナ
キスト・インターのボスターが街中
を埋め尽くしているカララを後に、
一路ハイウェイをフローレンスに向
つた。
(つづく)



高校生の異議申し立て

10・21尼北高の自主反戦デモ

10月20日午後8時頃、人気のない校舎に箇の音とマイクの音が響く。――ヒッピー安藤粉砕

斗争勝利――反戦共斗会談20名のデモ隊が階段を上り会談室の前につく。驚く教師、はかばか笑っている者もいる。会談室占拠を宣告し、全員突入。止めようとした教師もいたが無駄であった。代表が教師達に向い宣言を突きつける。明日の集会に一つ、他校生をよぶ。一つ、久松講師をよぶ。一つ、反戦労働者、他校反戦教師をよぶ。この集会の三条件絶対貫徹を宣言し終えるとデモ隊は中庭へと出ていった。

④ ④ ④

尼北反戦共斗会談は、10・21口際反戦デモにあたり、の反戦自主ヒッピー従来の授業形式を打破り、教師、生徒共にそれぞれの立場を放棄し、他校生・労働者と共に一つの人間として参加する反戦討論集会――と、②阪急塚口駅までのデモ行進を全尼北人に提案してきた。そしてその意義に賛同した50名の署名をもち、学校側にその開催の許可を迫っていた。しかし学校側はこの討論集会を勝手に従来の生徒集会と規定し、授業の一環として行うことを決めたのだ。そして生徒自ら講師として招こうとしていた岡本の久松助手や他校生の参加をも拒否したのである。この様な学校側に対し、この日反戦共斗会談はデモと三条件の絶対貫徹宣言でもってあくまで反戦自主ヒッピーの決行を会談中の教師達に通告したのである。

狭い部屋の中で議論が起ころ。――どうしてこんなに教師と敵対せなめいんねん――一人が真剣に向う。皆も教師との感情的対立の深まりに不安を感じていたので。結局条件つきで話し合うことにまとまった。①まず会談室突入をゆるぐ。しかし②生徒は一切敬語を使わず共に人間として話し合うことに決めた。代表が交渉に行くことにした。職員会談が終わったのは11時をすぎた。殆どの教師は帰り、話し合いに残ったのは校長と10名ほどの教師だけであった。まず校長は職員会談の説明があつたが、

依然として学校側の態度はかわっていない。むしろ久松氏をはじめとする外部参加者に対するし、さらに強硬に拒否する態度を示した。あとで判ったのだが、久松氏に対して断りの二重電報が学校側から打たれていた。

④ ④ ④

教師の提案で話し合いは幕となった。同窓会館のフットンの上で着々と最後の計画調整が進む。H・Rボイコット放送のため放送室の一時占拠が決まる。占拠する者、情報の連絡係、どんだん分担任決められていく。一方の職員室でもまだあかりがつきその下で数人の教師があわただしく動いている。

④ ④ ④

二人の寝るの番を決め他の者が寝たのはもう四時になろうとしていた。朝七時、全員起床である。8時頃になると一般生徒も一人・二人と登校しはじめる。校内では民青とベ平連がそれぞれビラを配っている。

校門を入った所に反戦共斗の手により小さな立看板で立てられ、映画のポスターが張られる。体育館では映画機、映写機が用意されている。8時20分、もう放送室を占拠しているはずだ。全校生徒はHRをボイコットし体育館に入って下でいじと放送が流れる。やたら、しかし後が続かない。どうしたのだろう。するとすぐに学校側の放送がHRに変わる様く返り始めた。放送室に教師が乱入りし、反戦共斗の生徒は放り出されていったのだ。皆の顔にあせりの色が浮かぶ。だがすぐに携帯マイクで中庭からHRボイコットの呼びかけが、教師達はハレンチにも説明のビラを配り、その中で反戦共斗の非合法性を強調して、一般生徒との分離を図っている。そこで急激対策を講じる為全員が集まる。まぶはじめは学校にへがモニをとりせ、途中で追求集会に切りかえ、折をみて久松講師に登壇してもらうことになった。

HRが終わると全生徒が体育館に入っていく。校内には通路を残してカキがかけられ、一部反動教師によってビラが張られた。教師達は暴力阻止の構えを見せている。反戦共斗の10名もこれに対応するため校外へ出た。次々とみっぐの良の紳士が校内に消えて行く。おそらく青友会員であろう。近くの路地には私服がウロウロしているのも見える。九時頃他

校の代表が、続いて尼崎反戦青年が数名やってきた。まぶ他校生を通路から入れようとするが教師達は体で押し返して来た。無理に突破はしなかった。久松氏の到着を待ち全員で突破することにしたのだ。

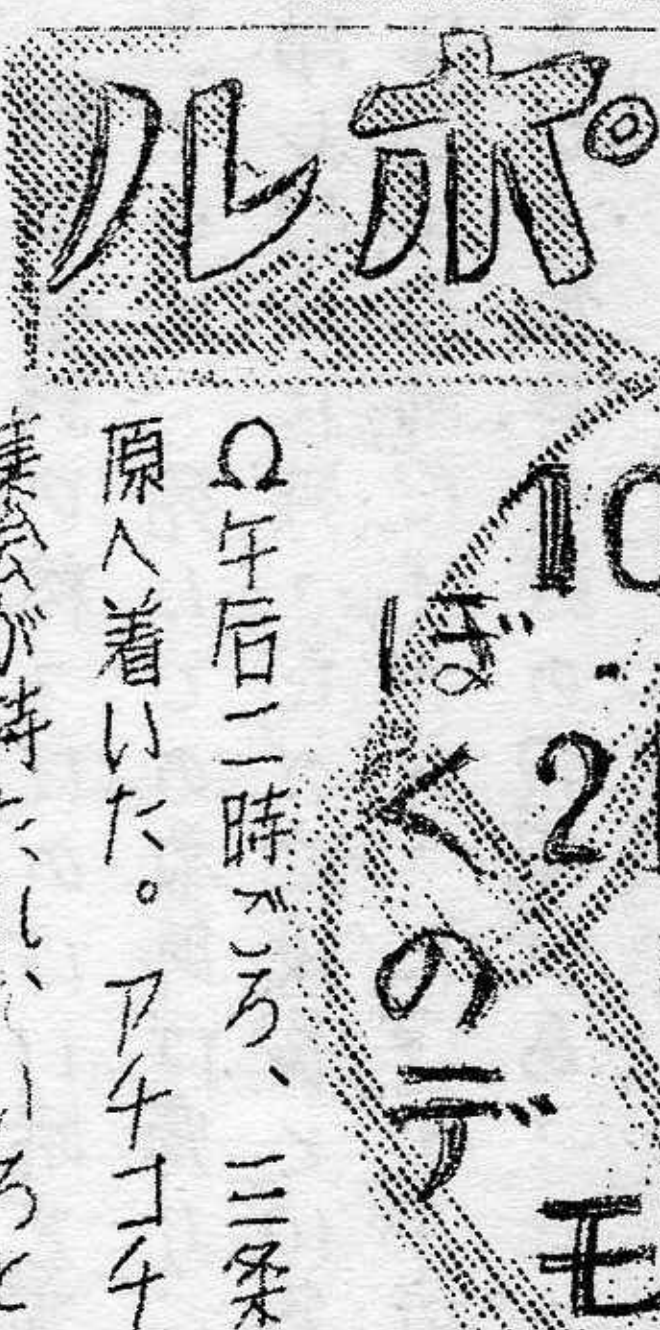
11時前久松氏が到着した。色めきこたつ報道陣。教師達も教頭を先頭にさらに集まっている。反戦共斗は全員で久松氏・他校生・尼反戦を取り囲み通路へ向う。すると意外にも改変連は他校生だけの時にみせた藤原暴力的待をとなない。その中を教師達を無視して体育館へと向う。体育館の入口にもビラが張られている。その中に自民党に党籍をおく青友会長の姿も見られる。彼らは今度ははつきりと暴力で阻止にきた。かそれと暴力で突破して体育館の中に入る。体育館ではまだ映画。パリの五月、教師の手により上映されていた。

しかし映画はすぐに終り議長団の選出が行われる。反戦共斗の二人が議長副議長に立候補し、すぐに拍手をもって認められた。しかし集会のへがモニはまだ学校側が握っている。集会は五口グラムにぞつてまぶ社研の生徒の安保条約とその質疑応答が行われ、次に社会科教師三名による講演が進んでいく。この講演は久松氏の講演の代わりとして正規の授業のように生徒に押しつけたものである。

教師の退屈な講演が終わると、突如として反戦共斗の一人がマイクを取り学校側を糾弾する追及集会に切り代えることを提案した。しかしその声もすぐに聞こえなくなってしまう。騒ぐ一般生徒。どうした。と野次がとぶ。教師の手によってマイクのスイッチが切られたのだ。すぐ一人が外へ出て携帯マイクを走って持つてくる。彼がすばい行動に一般生徒から拍手が起った。集会のへがモニは一挙に反戦共斗の手に移っていった。次に校長が久松氏の講演をきく様一般生徒に提案し、久松氏がマイクの前に立つ。しかしまだマイクは切られたままである。

あわてる教師達は青友会長の「非合法を許すなしの絶叫で立ち上った。久松氏に詰めよる。我々はあなたをお呼びしていない。講演してもらっては困ります」と口々に叫ぶ。校長も久松氏を一方的に攻撃している。かよく聞えない。何言うてんねん、聞こえへんぞ。校長聞こえる様に話せ。生徒の野次は校長に集中している。

(8頁中絶中央につづく)



○午後二時ごろ、三条河原へ着いた。アチコチで集会が持たれ、いろいろどりの旗が自分を主張している。橋の上には20人ばかりの私服。百人ちかくのヤジウマ。

○出発、后三時。隊列を五つに分け、ヘルメット部隊を先頭に、フオーク・マリヤで後を締めるという、例のベ平連スタイル。一番手は、封鎖経験ありの曰吉ヶ丘高校銀ヘル部隊、その10人の中、ひとり黒ヘルのさえない男、ボケ。○二百メートルも進まないうちにデモの指揮者不当逮捕。ついでにお前もとほくを掴んだが、三条河原前にアーケードがあることがさしわたしして、ぼくはしばらく鉄柱と抱擁。

○すぐに隊列をくみなおす。アンボ、フンサイ。トウソウ、ショウワリ。少しでも遅くすれば、丁度歩は逮捕だぞとの強迫。素知らぬふりで更なる進歩をすれば、歩道側の私服がこつく、蹴るのハレンチマ。おかげで、ぼくの左肩と左くるぶしは紫いろ。右手でマイク、左手で最前列のテンボをとる。私服がぼくの胴体をまるごと持つて、耳もとでささやく、「捕まったらつまらんぜ」ふりほどいて、しつこく後を向いていると、こんどは巨体の出番、つきとはされ前をむかされる。強いなあ、口ポットめ。

○三条通を左に折れて、烏丸通を南下。歩道から一人だけ拍手。○しのような感じ、ずいぶんど勇氣のいることだろう。ぼくの横には20人ばかりの私服が歩いてくるのに。逆に市電から見てくる人の眼は、冷たい。

○四角通に出る。歩道を通る人の数が増え、市民の監視で私服もぼくを突くこともできなくなった。後を見るために立ち止まってみると、3人ばかりの私服がぼく車向についている。デモの列は三百くらい一列は4・5人。8ヶ所マイクを使っている。みんな自然発生的なリーダーらしい。

○かけ足で再び隊列へ。最前列の左端へはいつて進歩する、口で言う逮捕されるかもしれないから。敵もさるもの、片度のおど

し、「お前がやっているのは判っているんやで。デモ全体でなにかおかしいことがあつたら、すぐに逮捕するぞ」御苦労さんです。——よく見ていたわかるのですが、みんなひとりひとり加わっているというのと、だからぼくを捕えても、まだだれかがやる、さういつても理解できないだろう、イマには。

○⑤の指揮棒がときどきぼくを指す、笑いながら。信じられぬことに、⑤は笑いながら人面を捕まえるのだ。指揮者の気分ひとつで逮捕するかどうかが決まるのだ。

○こんどは3人の伴といつしよに最後尾のフオーク部隊へ。2・3曲歌っている間に、戻り着く。不当逮捕地獄にまでも別に何も感じない、満身の憤りを感じてもいいだろうに。外の景色が少し硬はって見えたことを除けば、ふだんと変わらないデモであつた。

（ア真ん中のつぎ）
ここでやつとマイクのスイッチが入った。校長は教基法をたてに説明する。久松氏の講演は教育の中立性を侵すものであるというのだ。ナンセンス」盛んに野次が飛ぶ。今度は久松氏が生徒に訴えかけようとした。すると又もやマイクのスイッチは切られた。マイクを入れたら、の音が飛ぶ。その声はすぐに全生徒の声となつて体育館をゆるがしたのである。マイクマイクマイク……この叫び声に学校側はおおおとスイッチを入れた。議長が全生徒にこの講演を聞くかどうか拍手をもって決を取ることを提案した。もちろん大多数の賛成をもって決議を聴くことが決まった。すると突然校長は由会を宣言した。生徒は黙ってはいなかった。校長かえれ」のシュクレヒコールが体育館を包んだ。とうとう校長はあきらめたのか会場から姿を消した。ついに生徒は自らの手で自分達の講演を勝ち取ったのだ。やつと久松氏の講演が始まった。

一時過ぎに訂議と討論は打ち切れ反戦共斗会により具体行動として授業ボイコットそして反戦総決起集会から塚口駅までの自由参加デモが提起され、それをもってこの反戦討論集会は由会とされた。

その後すぐに会場を中庭へ移し、午後からやって来た兵衛連ヘルメット部隊20名の参加を得て、反戦総決起集会がもたれた。30名におよぶ生徒が結集した。

○分程の集会のあとすぐにデモ行進へと移った。先頭にヘルメット部隊の名が続く。これら一般生徒の殆んどはデモが始めての者ばかりであつた。その為か、ジタカスデモは回避され、時折フランスデモを混じえた平穏なデモである。デモは途中から機動隊の並進規制を受けた。

その後、殆んど全員が電車に乗り込んで扇町公園へ向つた。そこでベ平連のデモと合流したが全員無事解散地大手前公園についた。

この10・21斗争もようやく終わりに近づいた。尼北反戦共斗会ではその場で他校生と共に今日一日の斗争の最後の総括を行った。

——個別斗争の深化なしには街頭斗争のエネルギーは勝ちとれない——

その内容を確認し、この斗争の意旨をデモ参加者がクラス討論に持ち返ることを決めた。

尼北反戦共斗会では尼北斗争の深化を目指し、11月斗争へ向けて更に飛躍しようとしているのである。

（下条 薫）

編集室

一面の小論は「ぼくは」というのにちて書かれていない。即ち「われわれ」という一人称複数で、いわゆる過激派の10・21を語っている。当夜の行動に、ぼくもまたぼくなり形の形で加担したものととして、そのように書かねば責任をまぬがれぬと思つたからである。

だが印刷されたものをみて「われわれは」と云うことと共にあるべき「わたしは」という言葉が、ほとんど欠落していることに気付いては、全然としている。そのことは他の党派新聞と同じく、またぼくも他人の様に状況論を論じ、批判し、かくあらねばならぬと、読者達に訴え、指示する口吻をうかうかと真似ていたということにはかならぬのではないか。自らがなしたことを、他者をうごかそうとすることによって論及し、自己の論理をつくらうとしていたのではないか。

（向井）

自連記者会お知らせ 京都/百万遍南一筋メ西入ル日本材料学会会館
11月29日6時 岡山/芳竹会館
11月22日6時 大阪/梅田喫茶店MOKO5階 11月23日1時